

## 【全体会グループ討議報告】（概要）

### テーマ1「少数職場におけるOJT」 和田委員より報告

《現状》人数が少ないことによる困りごとの話として、

- ・人数が少なく、訪問に出してしまうと誰もいなくなってしまう。
- ・話の伝達がうまくいかなくなってしまう。
- ・新人だけが残されて、一般相談をきちんと受けられなくなる。
- ・困り事を少人数だから解決できることもあるが、なかなかうまく言えない、言いにくい。
- ・資格としては同じ、職制も同じだったりすると、なかなか『それは違うのではないか』等、言いにくいことがある。

《課題整理》

- ・分からないということについて、何が分からないかを分かるように課題を整理し、少人数で出来ると良い。
- ・相談員として同行して、相談員としての活動を共に振り返る、共有する場をうまく持つ。
- ・少人数なのにスムーズな動きが分からない。

《対応策》

- ・当事者の方から、話しやすい雰囲気的大事、きちんと当事者の話を聞いて欲しいとの話があった。
- ・言葉だけではなく、スケジュールが見える化出来ると良い。
- ・同じ行動をして振りかえるということも貴重なので、情報を共有するだけでなく、考え方、相談支援の振りかえりを含めて、そのような時間の共有化が大事
- ・話しやすい雰囲気、職場が大事

### テーマ2「参加しやすく効果的なOFF-JT」 近藤委員より報告

《現状》

- ・地域で格差がある。行政全体で研修をやっているところ、自立支援協議会の相談支援部会で行っているところ、研修をほとんどやっていない地域もあり。
- ・葛飾区では初任者研修もやり、そのあと現任者研修もやり、丁寧な研修を実施
- ・江戸川区は相談員は全員出席という体制で、ほぼ強制、出してもらうという姿勢
- ・参加状況については強制以外のところは実務が忙しいのか、新規配属の支援員の数が少なくなっているのか、参加者は減少気味の傾向

《課題整理》

- ・障害児、成人、高齢者のライフステージごとの支援体制の狭間にある問題等を含め、ライフステージに応じた支援はどうなるのかという研修
- ・相談支援の種別もばらばらで、今は精神だけをやっていれば良いというのではなく、その利用者に関わる家族、親の問題、そうすると高齢者の問題も関わってくる。
- ・障害種別によっていろいろな制度の使い方も違う、その勉強の仕方について

#### 《対応策》

- ・ 基礎的な研修をまず行ってほしい。
- ・ ステップアップした研修も必要
- ・ 研修の日程について、人によって希望する日程が違う。
- ・ 一番出てみたいという研修はライフステージに応じた支援体制について
- ・ 駄目な研修としては、行政は把握している情報を出していただき、こうしてほしいという見方等も伝えてほしい。
- ・ 厳しい地域の中でしっかり勉強しているところも見られるので、質の向上を意識してやっていくこと、意図的に促すことも大事

### テーマ3 「相談支援専門員同士のネットワーク」 海老原委員から報告

#### 《現状》

- ・ 相談支援事業所同士の連絡会、相談支援専門員の有志が作っている連絡会があり、それが発展して相談部会になったりしている。内容はそこで研修会を行っていたり、事例検討を行ったり、情報交換を行っている。

#### 《課題整理》

大きなテーマは2つあり、Cグループでは、最大の問題はネットワークの推進力が低下していること、その理由として、

- ・ 行政主体のところが多いのではないか
- ・ 行政主体だと事務的になり、内容がマニュアル的になったり、モチベーションが続かない
- ・ リードするキーパーソンを行政では作りにくい
- ・ 行政は異動もあり続かない
- ・ 民間の力が弱いのではないか
- ・ 方向性が定まっていないので続かないのではないか

#### 《対応策》

- ・ 行政主導に慣れることなく、中立の立場に建てる人、中立に立っている人など、学識経験者などに関わってもらうことも必要
- ・ 役割をローテーションして、常に刺激を与えていくことが大切
- ・ 事例検討などで困っていることの情報交換は出来るが、解決に至るまではいかない。ネットワークを通して情報交換をして、こういった問題の解決の方法がありそうだというポイントを示してもらうことで解決できたといった成果の見えるネットワークにしておくこと、そこまでできるネットワークを作ることにより、やる気が継続できるのではないか。

Dグループの方では、

《課題》

- ・ いろいろ人手が足りない。
- ・ 事業所が足りない。
- ・ 計画を作るだけになってしまっていて、計画相談本来の役割が果たせていない。
- ・ 資質向上が出来ない。
- ・ 当事者視点が少ない。
- ・ 新しく参入した事業所が既存のネットワークに参加していこうと思っても、活動内容や話題のレベルが高くなっていて、専門的になっていたりして、初歩的な質問がしにくく、既存のネットワークに入っていくにくい。
- ・ 資質の向上については、順次ステップアップしていくので、事業所によっては差が出てきてしまう。

《対応策》

- ・ ネットワークの中で初心者の方にも、対応していく、プログラムを作っていく。
- ・ 初心者向けのネットワークが別にあるとか、気軽に分からないことを聞きやすくしていくと、向上していける。

相談支援専門員のための計画になってしまっている傾向があるのでは。計画は誰のためにあるのかというところに立ち返り、ネットワークに当事者に入ってもらい、当事者の目線で計画を作る、当事者視点でのチェック機能もネットワークの中に必要なのではないかという意見が出された。

共通しているのは官民共同で、行政の役割、民間の役割、お互いサポートしながら発展させていかなければうまくいかないのではないかという意見があった。

#### テーマ4 「他職種連携」 本多委員より報告

《現状》

- ・ 日程調整が難しい。
- ・ 会議がたくさんあり、形骸化していることがある。
- ・ 専門性、立場の違いで、医療モデルで考える方と生活モデルで考える方がいるので、本人を中心にしつつも意見が割れてしまい、うまく摺合せができない。
- ・ その地域にサービスがなかったり、具体的な対応策が出てこないため、計画が実行されにくい。
- ・ サービスにつながっていない子供、放課後デイや単独のサービス利用で、相談は関わっていないという人については、どのように今後相談支援が関わっていくのか。

《課題整理》

Eグループでは、

- ・ 時間調整については、サービスを使っている人ほど参加者が増え、難しい。その時々

キーになっている人に参加してもらうため、その方に合わせて日程を調整していくしかない。

- ・会議の前に目的を共有してから始める等、努力している。
- ・具体策な対応策に関しては、その個人の課題だけにとめてしまうのではなく、その課題をどう地域の課題としていくのか、実現するための手立て、道筋が分からないので取り組めないという現象があるのではないか。

Fグループでは、

- ・行政以外の事業所ではお金にならないところで動くことは難しい。
- ・周りが困っているが、本人が困っていないというケースについて、どのように取り組んで行けば良いのか。
- ・サービス利用のない人の連携をどうしていくか。
- ・他職種でも、医師、教育関係との連携が難しい。

《対応策》

- ・サービスにつながっていない方の支援の仕方としては、何かの時はすぐに使えるように支給決定をしてもらって、モニタリングなどで適時関わっていく。
- ・医師、教育関係との連携については、行政が主導して困難ケースのカンファレンスを開催できるように動いてもらえるとやりやすい。
- ・最終的には、迷ったら、本人がどうしたいのかというところに立ち返る。
- ・専門家がそれぞれの立ち位置で意見を言い合っても進まない、本人が置き去りにされてしまうことがあるので、本人の意見を聞く、親御さんの意見を尊重するといったことも必要。
- ・親御さんと本人の意見が違う時、そういったことも予め分かったうえで、本人を中心に進めて行ければよい。

親御さんは教育、福祉、同じような会議にいくつも呼ばれ、しんどくもあり、分からなくなってしまうことがあり、それが結果として何か行動に繋がらなかったときに、なんのために会議に出ているのかといった印象を持たれてしまうことがある。

会議が必要と思う反面、会議が整理されていないと、ただいっぱい参加する機会はあるけれど、会議の目的が達成されにくいという現状があることが分かった。

## テーマ5「他分野との連携」 高沢委員より報告

話されたことは、

- ◇ 多問題の家族の問題
- ◇ 一人で問題を抱え、ずっと地域に隠れて見えなかった方が何かのきっかけで現れて、最初は小さな問題だったのが大きな問題を抱えていて、多分野で連携していくこと。以上のことに対して、どのようにしていけば良いのかが話し合われた。
- ・行政の仕組みが解決するための仕組みになっていない、縦割り行政で連携しづらい、そ

れを解決していくためには中心となって動かしていく人が大切。

- ・ キーマンだけでなく、共通するツール等があったら良い。
  - ・ 他分野では、どんな関係者のところに集まり、どのように進めていくのかというのが難しい。
  - ・ 基本的には、本人の問題というだけでなく、家族全体のシステムという大きな枠で見えないといけない、そうしたときに他分野連携が出てくる。
  - ・ 違う立場の方々が異なる言語の中で集まり、最初の議論を始める前に時間がかかるが、その手間をかけ、互いに理解するところから他分野連携になる。
  - ・ 当事者の方から、他分野連携というのは、困った人がいて、その人に対して何か支援、アプローチをしていく意味では基本は同じ、他分野連携にとらわれず、本人からすると視点は一緒、つまり目的や目標、価値の共有が大切であり、そこへ至る道が大変である。
- 他分野連携といっても地域は一つ、いろいろな視点でその人の地域の福祉に関わっていくので、どこに行っても誰かが気にかけているまちづくり、安心感のあるまちづくりというようなものがベースにあり、その基盤の上に多くの人が集まり、当事者を支援していけることが他分野連携の大きな俯瞰した見方だと思った。